

第1回 檜葉町原子力防災対策検討委員会 議事要旨

日 時：平成26年2月23日（日）10：00～13：00

場 所：檜葉町いわき出張所 谷川瀬分室 2階会議室

配付資料：

議事次第

委員名簿

座席表

資料1 「檜葉町原子力防災対策検討委員会」の設置について

資料2-1 福島第一原子力発電所の状況について

資料2-2 汚染水の状況と対策について

資料2-3 福島第二原子力発電所の状況について

資料3 福島第一・第二原子力発電所の安全・監視体制について

参考資料 位置図（檜葉町）

（議事に先立ち、町長挨拶、事務局から本検討委員会の設置についての説明、委員委嘱の後、松本町長より松本委員が委員長に指名され、委員長挨拶の後、委員長の進行により議事が開始された。）

議 事：

1. 事業者の取組

東京電力（株）から、資料2-1、2-2、2-3に基づき、福島第一・第二原子力発電所の状況についての説明がなされ、それに関して、以下のような意見が出された。

- ① 1F：燃料取り出しのスケジュールについて、5号機、6号機はいつ頃を考えているのか。全体の工程として示してもらいたい。燃料棒がどうなるのかということとは重要。
- ② 1F 2F 共通：燃料の保管状況で原子炉とプール、どちらが安全性が高いと評価しているのか。片方は圧力容器、格納容器、建屋という3重の防護があるが、他方は建屋だけという観点から見ると、プールの方が安全性は低くなるのではないか。
- ③ 1F 2F 共通：使用済燃料プールについて、従来の想定以上に長い期間、燃料プールで保管するのであれば、安全の観点から対策を検討すべきではないか。

- ④ 1 F 2 F 共通：災害に対して単一事象それぞれに対処できるというだけでなく、複合的に事象が発生した場合にも対処可能かという観点で説明が欲しい。そこが防災対策の出発点になる。
- ⑤ 1 F 2 F 共通：建屋について耐震性を評価したとのことだが、設備の耐震評価は、事故後の設備損傷がまだ把握できておらず、難しいと考えられる。
- ⑥ 1 F：先日20日の汚染水漏れの事故について、調査の経過を教えて欲しい。
- ⑦ 1 F：万一、非常事態で高濃度汚染水が漏れてしまい、それが海に出た後の動きについてのシミュレーションは無いのか。
- ⑧ 1 F 2 F 共通：ハード面の対策について説明があったが、ソフト面の対策がどのようになっているのか見えない。例えば、新たにエリアモニタを設置しても、それをどう運用していくのかが示されないと安心に至らない。

2. 行政の取組

事務局から、資料3に基づき、「福島第一・第二原子力発電所の安全・監視体制について」を説明。

3. 総括

- (1) 町で監視委員会のようなものを設けて、随時報告を聴取したり、立入検査をするなどの案も付け加えてはどうか。
- (2) 国や県と異なる町の特徴は、地元で緊急態勢や個人の被ばくを考えなければいけないということ。住民自らが被ばく線量をモニタリングできるような取組を盛り込んだり、さらに町としてリスクコミュニケーションができるような人材育成をすることなどが必要。
- (3) 汚染水が漏れ、海を経由して、町民が被ばくするという心配はないと思う。被ばくより風評が問題。最終的には、情報伝達が大切。
- (4) 今後の福島第二原発の行く末によって、また、福島第一の廃炉のフェーズによって考慮すべきリスクの種類と大きさが違う。防災計画については、適宜見直しを進めながらリスクにあった計画を作っていくことが重要。

(5) 福島第一原発は廃炉作業に不透明なことが多く、使用済燃料貯蔵プールが地震で被災するようなことも想定することが必要。事故をモニタリングするシステムも必要。

(6) 東京電力（株）へ、次の4項目について、次回委員会で説明を要請。

- 1) 福島第一原発5、6号機の使用済み燃料取り出しの考え方
- 2) どんな複合災害のシナリオを想定し、どう対応するかといった全体の流れ
- 3) 先日のタンク上部からの汚染水漏えいの経緯
- 4) 汚染水海洋流出に関する研究の取組状況

(以上)